
‘ Guiterbug ’

MANDARIN.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

‘Guitarbug’

【Nコード】

N3517E

【作者名】

MANDARIN .

【あらすじ】

火のゆらめきと暖かい食卓をイメージしてください。

さて、、、まずは景気付けに100万年ものの石油をどうぞ。最初の料理は路上産、猫の糞にザリガニのペースト添えです。なめらかな舌触りと濃厚な蟹味噌の香りをお楽しみください。

ベッドの上で、僕は久しぶりに目を覚ました。

机のパソコンからはノイズなギターサウンドが控え目になっている。次に僕は起きあがろうとするが途端に腹が鳴り力が入らない。そういえば眠っているあいだ何も食べていないのだ。なにやら疲れた顔の太った支給が珍しい料理の乗った皿を並べる様子をついさつき見た気がするのだが、おそらく夢だったのだろうと思う。

それから随分とたって僕は相変わらず腹の中で胃液の混ざる音を聴いていた。窓から差し込む光も随分と赤くなったとき、さっきまで意識の外にあったノイズが頭の内側に入り込んできた。途端にベツドの底が抜け僕は空に落ちていく。誰かの叫び声が聞こえたがその声はますます大きくなったノイズと溶け合い、やがて一つの旋律となつてゆるやかに唄い始める。

暖かな火のゆらめきと並べられた料理を見てようやく落ち着きを取り戻した僕は背後に佇む太った男に声をかける。

この演奏は？

アンジエロ・バダラメンティの、Jitterbug,です。

ああ、なるほど。

僕は久しぶりに笑って、それから目の前の料理を口にはこんだ。

～f i n～

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、
14、15、、、

(後書き)

初作品となります。書き始めは楽しかったけど今はそうでもない。
行間が気に入らないからかな、、、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3517e/>

‘ Guitbug ’

2010年10月18日20時20分発行